

令和5年度第2回半田市子ども・子育て会議議事録

| | | |
|--|--|--|
| 開催日時 | 令和5年11月13日(月) | 13時30分～15時00分 |
| 開催場所 | 半田市役所 庁議室 | |
| 会議次第 | 1. あいさつ 2. 議題 (1)第3期半田市子ども・子育て支援事業計画策定に向けてのニーズ調査について (2)ニーズ調査の調査項目について (3)その他 | |
| 出席委員 | (会長) 末盛 慶 (委員) 田中 由加里、大崎 裕美子、福田 昌寛、加藤 朋子、北村 正信、山田 晶美、正村 日登美、榊原 千恵美、伊藤 奈美(敬称略) | |
| 出席職員 (事務局) | 学校教育課長 内藤 誠 子育て相談課長 三輪 象太郎 幼児保育課副主幹 冨塚 直樹 学校教育課主査 羽根 広 子ども育成課主査 山田 陽子 子ども育成課主事 服部 晃良 | 幼児保育課長 前田 成久 子ども育成課長 小林 徹 子育て相談課主査 和田 恭子 |
| 傍聴者 | 7名 | |
| 次 第 | 議事概要 | |
| | ○会長あいさつ ○事務局から説明(子ども育成課長) ・議事録について ・傍聴者について | |
| 【 議 題 】 (1) 第3期半田市子ども・子育て支援事業計画策定に向けてのニーズ調査について | (事務局) <資料1により、第3期半田市子ども・子育て支援事業計画策定に向けてのニーズ調査について説明> (会長) 説明は終わりました。資料1について委員の皆様から、何かご質問やご意見はありませんか。 (委員) 「集計および分析調査の分析報告書を作成」とありますが、いつ頃に出来上がるのか、日程は決まっていますか。 (事務局) 具体的には決まってはいません。調査票を渡してから、概ね2ヶ月半かかるとのことです。遅くとも3月上旬までに完成するよう、日程を検討していきます。 | |

| | |
|---------------------------------------|--|
| | <p>(委員) 対象者の抽出は原則無作為ということですが、就学前児童の保護者 1,000 世帯では件数が少なく、偏りが出る可能性があると思います。これについて対策は検討していますか。</p> <p>(事務局) 対象者の抽出については、前回調査と同様に小学校区と年齢の割合を考慮して調整させていただきます。 前回で、つばさ幼稚園には 25 件程度、調査票の配布・回収をお願いしていますが、同じ方法で対象者を決めていく予定です。</p> <p>(会長) 半田市は前回回収率が就学前児童の保護者が 67%、小学生の保護者が 87%ということで、とても高いと思います。名古屋市では 3 割ぐらいです。3 割の結果で判断していくというところで、行政としては苦勞していました。</p> <p>(委員) 調査方法について確認ですが、小学生のいる世帯は郵送配布ということですか。</p> <p>(事務局) 小学生の保護者については、学校を通じて直接配布・直接回収をさせていただきます。就学前児童の保護者で、保育園や幼稚園等に通っていない世帯に郵送配布をします。</p> |
| <p>【 議 題 】 (2) ニーズ調査の調査項目について</p> | <p>(事務局) <資料 2、資料 4 により、ニーズ調査の調査項目（就学前児童の保護者用調査票）について説明。設問数が多いため、市独自に設定した設問、今回新たに追加した設問について説明。></p> <p>(会長) 説明は終わりました。就学前の児童の保護者を対象とした調査項目について、委員の皆様から、何かご質問やご意見はありませんか。</p> <p>(委員) 問 23 についてお尋ねします。半田市として新たに項目を設けたということで、これからの子育て政策に合った素晴らしい質問だと思いました。 一方で、このような事業を利用したいと考える方にすこし伝わりづらいようにも感じます。子育てをしながら働いている方はとても忙しい日々を送っており、このような詳しい情報を得るのは難しいと思います。そうしたなかで、この設問の意味が伝わらないとしたら、とても勿体ないと思います。 新しい制度ですので、設問のつくり方をもう少し工夫することで半田市の魅力アップにもつながる項目になると期待しますが、いかがでしょうか</p> <p>(幼児保育課長) 「こども誰でも通園制度」につきましては、令和 6 年から事業を試行実施する市町村もありますが、まだまだ一般的には馴染みのない事業です。設問の表記について</p> |

は、現段階で制度自体が固まっていないこともあり、このような表現にはなりますが、このアンケート調査票の35ページ以降に制度等の補足説明を記載するところがありますので、そちらに追記させていただくことで内容がわかりやすくするよう対応させていただきます。

(委員)

忙しい中でお答えしていただくこのようなアンケートについては、回答していただく方ができるだけ本音を伝えやすい形にさせていただきたいと思います。問34に子育て環境や支援に関して意見を自由に記述するところもありますが、問23で知ることのできる潜在的なニーズは、この設問でしか把握できないと思います。

このアンケートで、新しい魅力ある子育て環境を伝えることができたらと感じます。

(委員)

問28については、問26、27で学童保育を選択した方に土曜日と日曜日・祝日の利用希望を質問しているものと理解しています。一方で、問29については、全ての方に回答してもらおう設問だと思いますが、「なお、放課後児童クラブの利用には一定の料金利用料がかかります」という記載もあり、放課後児童クラブに入っていることが前提になっているようにも感じられ、回答に迷うような気がします。設問の表記について、「宛名のお子さんについて」の前に、「全てのお子さんについてお尋ねします。」というような記載があるとわかりやすいと思いました。

(事務局)

ご指摘のとおり、表記を変更させていただきます。

(会長)

とても重要なご指摘だと思います。分岐質問が終わったところでは、「全員お答えください」と表記すると戻りやすくなるので、該当箇所はするように修正した方がいいと思います。

問29に関しては、これまでの会議の中で夏休みと冬休みが大変だという意見を保護者の方々からいただいて設定したという流れもあると思いますので、日ごろの皆さんのご意見がこのような反映されていると感じました。

結果次第で、これからの半田市の方向性も変わってくると思いますので大事な項目だと思います。できるだけ多くの方がお答えいただけるよう、「全員お答えください」といった表記があるといいと思います。

(委員)

子育て支援法第61条は、産後ケア事業については対象ではありませんか。

(子ども未来部長)

産後ケア事業は、母子保健の関連になりますので、この法律の対象事業ではありません。

(委員)

この調査票の最後にある補足説明の部分について、このまま調査票の後ろにつけるよりも、別冊になっているとわかりやすいと思いました。

さらに言えば、色付けをしてもらうことでとても伝わりやすい良い資料になると思いま

す。

(子ども育成課長)

ご意見ありがとうございます。わかりやすい形になるよう、分冊にするのか、色を変えるのか検討させていただきます。

(会長)

今のようなご意見も非常に大事なところだと思います。調査票の後についていると使いつらいと思いますが、例えば色紙で冊子にすると答えやすくなると思いますし、日頃から使えるものになりますので、工夫していただけるといいと思います。

(委員)

資料2の21ページ以降からの質問の中で出てくる、回答の否定的な選択肢で「利用する必要はない」という表記がありますが、肯定的な選択肢の「利用したい」という表記と対比していないように感じますが、表記方法に理由があれば教えてください。

(子ども育成課長)

その点につきましては特に使い分けありませんので、ご指摘のように違和感がないよう揃えるようにします。

(委員)

問21について、これはお子さんが病気や怪我で保育園や幼稚園を休んだということでしょうか。設問の表現がわかりづらかったです。

問21-1の選択肢についても、「父親、母親が仕事を休んで子どもをみた」というのは、子どもの面倒をみたということだと思いますが、問21-5についても、「できれば仕事を休んでみたい」という選択肢についても、「仕事を休んでみたい」ということではなく、「仕事を休んで子どもの面倒をみたい」という意味だと思いますが、ぱっと見たときに意味が伝わりづらかったです。

(子ども育成課長)

問21については、ご指摘のように、「休んで子どもをみる」ということが伝わるように表現を修正させていただきます。

(委員)

「普段利用している教育保育事業が利用できなかった場合」というのは、保育園や小学校を休んだ場合ということですね。一般的にはそのほうがわかりやすいと思います。

(委員)

例えば括弧書きしていただくと、わかりやすいと思います。

(会長)

表現の一つでも、印象が変わりますので大事なところだと思います。

問23の選択肢について、1に「利用する必要はない」とあり2に「利用したい」となっていますが、他の設問は、選択肢の順番が逆なので、同じ流れにした方が回答

者は答えやすいと思います。

(幼児保育課長)

ご指摘のとおり、修正させていただきます。

(事務局)

<資料3、資料4により、ニーズ調査の調査項目（小学生の保護者用調査票）について説明。>

(会長)

説明は終わりました。次は、小学生の保護者を対象とした調査項目についてですが、委員の皆様から、何かご質問やご意見はありませんか。

(委員)

表紙の大枠の中「・」が、二行目だけフォントの大きさが違いますので、修正してください。先ほどの資料2も同様です。

(会長)

体裁を綺麗に整えていくことで、全体的に見やすい質問紙になっていきますので、ご指摘ありがとうございます。

(委員)

資料3の10ページ、病児保育ところですが、低学年の保護者だけ回答することになっていますが理由はありますか。

(幼児保育課長)

病児保育事業に関する設問になりますが、半田市では、低学年のお子さんはお預かりしていますので、高学年の保護者の方と切り分けて設問を設定しています。

(委員)

問8「宛名のお子さんをみてもらえる親族知人はいますか」という質問について、例えば、西尾市や阿久比町は近くに親御さんがいる世帯が多いようですが、半田市は親族が県外にいる世帯が多いので、この質問だと、「いずれもない」という選択肢、もしくは「緊急時もしくは用事の際には子どもを見てもらえる知人がいる」を選択する方が多いのではないかと思います。

そういう状況で、親子関係がよければいくら遠方でも、緊急時もしくは用事の際には子どもを見てもらえると思いますが、そうではない世帯については保護者が、知らないうちに様子がおかしくなっているようなことがあることを考えると、もう少し丁寧に、その保護者がSOSを出せる親族知人について知っておくというように感じますが、いかがですか。例えば問7と8の間に、保護者の方の実家が県外か近隣に知人、親戚がいるかといった設問項目を設けたらどうでしょうか。

(子ども育成課長)

必要な情報だと思いますが、この中に組み込めるかどうか、検討させてください。

(委員)

調査は無作為抽出で行うとのことですが、市内には、ある程度の外国人の方がいらっしゃると思います。保護者によって、日本語の習得レベルが違うと思いますが、そういう方々への対応について、検討されていることがあれば教えてください。

(子ども育成課長)

外国籍の方が増えている状況で、そういう方のご意見も必要だと思っておりますが、今このアンケート調査においては、どのように多言語で対応するかといったことについて課題であると認識しています。

今後このような子育てに関する意見をいただくときに、そういった方の声をひろう方法について検討していきたいと考えております。

(委員)

外国籍の方に関連して、例えば小学校についてはずいぶん偏りがあります。外国籍の方が多い小学校がわかっているので、ここまでのことを調査するのであれば、翻訳が大変かもしれませんが、何か方法があるのではと思います。

(会長)

アンケートで集めるのは意味があると思いますが、限界もあります。少数派の方が参加できないという課題があるので、他の自治体では、グループインタビューの場を個別に設けてその結果を報告書に入れ込む等、アンケートとグループインタビュー等の手法をいくつか併せて実施することが最近が増えてきています。個人的には外国籍の方が増えているという半田市の現状を考えると、幼稚園、保育園等に行って、1時間ぐらいのグループインタビューで、子育てに関する印象や、どこが難しいのかということについて聞き取り、その報告書を最後に入れ込む形にすると、次に繋がるのではないかと思います。

(委員)

外国家庭向けにこの質問表をそのまま翻訳したとしても、理解に苦しまれると思いますので、どういところで困りごとがあるのかを知る意味でも、外国籍の方向けのアンケートを、ニーズ調査とは意図が変わってくるかもしれませんが、そういうものがあってもいいと思います。

(委員)

このアンケート自体は、その宛名のお子さんに関して自分の家庭環境のことを調査しているということですが、その方の周りで困っている方がいるということを聞いていた場合、この調査の目的とは違うかもしれませんが、そうした声をここで拾い上げることができると良いと思います。

(子ども育成課長)

この調査については、宛名のお子さんの保護者が対象ということになりますが、先ほどの外国籍の方と同じですが、今言われたようないろんな人の声を拾えるような仕組みをつくっていくことは必要であると考えています。

(会長)

資料3の17ページにある問25の自由記述について、例えば「教育・保育環境の

充実など子育ての環境支援に関して、ご自身及び周囲の方々から聞いたご意見がありましたら、ご自由にご記入ください」とすると、周囲の方々のご意見も拾えるのではないかと思います。

(委員)

スケジュールについて、2 ページ目に回答期限を記載する箇所がありますが、どれくらいを想定していますか。

(事務局)

前回の調査は11月30日から12月17日まででしたので、同じくらいの期間で考えています。

(子ども未来部長)

補足ですが、アンケート調査がこの時期になりましたのは、国からの情報提供を待っていたというところがあります。情報が示されないなか、他の自治体同様、ある程度見切りで実施している状況です。

厳しい日程ではありますが、適切な時期を判断して進めていきたいと考えております。

(委員)

アンケートが手元に届いて、回答するまでの期間が2週間強だと、それが適切な期間なのか、判断が難しいと思いました。もう一点ですが、調査票に「回答にあたっては、一定の時間を要するため」とありますが、最近のアンケート調査では、「おおむね何分かかります」というように記載されているものがあります。私自身このアンケートを回答したところ約15分かかりました。おおよその回答時間を具体的に記載したほうが、取りかかりやすいように思いました。

(子ども未来部長)

育児や仕事で非常に忙しい方々が、この調査票の厚みを見てなかなかとりかかれず、ただ送っただけでは回答していただけないと考えています。その点、半田市では、学校等を通じて配布・回収をしていただけるため、回答率が高くなっています。ナッジ理論といいますが、読んでいただく方が答えようという気になる言葉を出す工夫が必要だと思いますので、所要時間の記載については担当と相談させていただきます。

(委員)

最近では、国からのアンケート等でも、スマートフォンやパソコンで回答できるものが増えています。この調査についてもそうした回答方法は可能ですか。

(事務局)

現在、インターネットの回答フォームを作成しているところです。資料2、3の2ページ目にURLとQRコードを掲載させていただきます。

(委員)

そうだとすると、調査対象者を増やすことも容易になるように思いますが、その点はいかがですか。

(子ども育成課長)

現時点では、ここに示させていただいた対象者の人数で十分なデータが取れると考えていますので、このままで実施させていただきたいと思います。

(子ども未来部長)

すでに委託業者と契約をしていますので、対象者を増やすことは難しいです。

(委員)

Web の回答方法について、回答の途中で作業を中断しても、その後、続きからできるようになっていますか。

(事務局)

そのような一時保存の機能はあります。ただ、使用する端末や機種によっては操作方法等で、回答の履歴が消えてしまうことがありますので、その点、注意喚起できるような資料を添付させていただきます。

(委員)

若い世代の方々ですと、どちらかというと Web で空いた時間にやる方法のほうがとりかかりやすいと思いますので、そうした機能を活用できるように進めてください。

(会長)

重要なお指摘だったと思います。回答の途中で、子どもに呼ばれたりするなかで、操作を中断した後に、リセットされてしまうと答える気をなくしてしまうと思います。

一時保存ができる機能があるシステムであれば、調査票の「ご記入にあたっての注意事項」のところで「一時保存可能です」という記載を入れるだけでも回答してみようという方が増えると思いますので、可能な範囲でご検討ください。

(委員)

この量の質問のアンケートが家に来たら、とりかからないかなと思います。もっと量を分けて聞いてもらいたいです。ぱっと見て答えやすい質問であればいいですが、難しく書いてあるとそれだけで回答しようと思わなくなってしまいますので、そのあたりを工夫していただけるとありがたいです。

また、外国籍の方が周りにもたくさんいますので、そうした方の意見を聞けるようにしていただきたいと思います。

(委員)

アンケートの結果については、公開しますか。回答してくれた方が、結果を知りたいのではないかと思います。

(子ども未来部長)

ニーズ調査の結果については、前回はホームページに掲載させていただきました。

(会長)

統計法の関係もあってデータを公開する動きが進んできます。結果を公開することもそうですが、研究者等が使えるようにするというところでもデータを公開しています。

(委員)

このアンケートに答えることで、自分たちの子どもの未来がすごくいい形になるんじゃないかという保護者が期待をもてるものになるといいと思います。

そういう気持ちになってもらうためには、このアンケートの目的について、次の世代の子どもたちのために半田市がいかに子育てに取り組んでいくか、そのために皆さんの意見がどうしても必要ですといったことが伝わると回答したくなるように思います。

結果についても、回答者に丁寧に伝えることと、今後こうなりますということがわかると次に繋がると思います。

(子ども育成課長)

ご指摘のように、前書きのところで、皆さんがこれを答えることによって、何か変わるかもしれないというようなことが少しでも伝わるように工夫をするようにいたします。

また、結果につきましては、わかりやすい形でホームページ等でお伝えできるように準備をしていきたいと思えます。

(委員)

この調査が現状を聞かれているのか、これからの未来のことを聞かれているのかが、受け手には少しわかりづらいように感じるので、未来のために協力している、これからのための調査であるということが、アピールできるといいなと思えます。

(委員)

資料 2 の 29 ページ、問 30-5 ですが、「育児のために 3 歳まで休暇を取得できる制度があった場合、希望としては何歳まで取りたかったですか」という設問ですが、3 歳まで休暇を取れる会社は少ないと思えます。国の方針で、国の設定した質問ですか。

(子ども育成課長)

国の資料をもとにつくった設問です。

(子ども未来部長)

国としても自治体を実施する支援事業ありきではなく、企業でも働きやすい環境を整えていくことで、両輪でやってほしいということだと思います。先般、保育園の保護者にアンケートをしましたが、そのなかで妊娠・出産を期にお仕事を辞められた理由を聞いたところ、会社の制度が整っていなかったという回答が非常に多いことに驚きました。

企業で制度が整った場合、どのぐらい休みを取るかということは、質問させていただきたいところです。

ただ、今のご意見をお伺いする中で、これを聞かれた側の感情について知ることができましたので、工夫できることがあればさせていただきたいと思えます。

(会長)

先ほどの挨拶文に関して、最後に「なお、この調査は」という段落に、「小学生のお子さんがある世帯から対象者を無作為に抽出し」という後に、「今後の半田市の子ども・子育て支援をより豊かにするために、協力をお願いするものです。」と追記し、太字、または下線をすると、目に入るかなと思えます。そうすることで、未来のための調査ですということを伝えると、回答していただける方が増えるのではないかなと思えます。他

| | |
|---------------------------------|---|
| | <p>の部分でも構いませんが、「この調査は、」という目的を記載している段落ですので、 適当な箇所ではないかと思えます。</p> <p>(子ども育成課長) はい、ありがとうございます。参考にさせていただきます。</p> |
| <p>【 議 題 】 (3) その他</p> | <p>(会長) 議題の3点目、「その他」について何かありますか。</p> <p>(事務局) 本日の会議でいただいたご意見について、事務局にて検討した上で、調査項目を 確定し、今後、11月末から12月中旬にかけて、郵送、または保育園、幼稚 園、こども園、小学校経由で、調査票を配布、回収します。</p> <p>回収しました調査票は、2月中旬から下旬までに委託先である 株式会社都市 研究所スペースにて、集計・分析を行い、その結果については、3月に予定をし ている第3回のこの会議の席上で、報告させていただきます。</p> |
| | <p>(終了)</p> |